



そらとつちとみどりの会話

NOSAI



information magazine of
NOSAI KAGAWA

1 2014
January

vol.005

新春特集 実りある一年に
今年を駆ける午年農業者

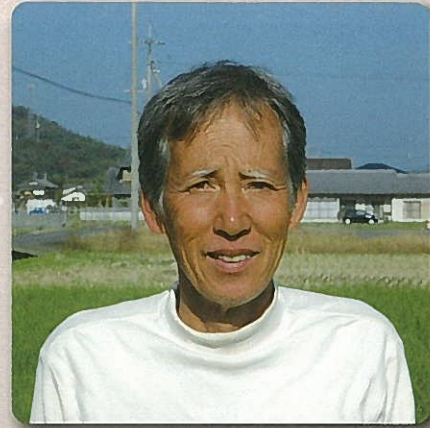




新春 特集



今年の干支は午です。午年生まれの方は、陽気で生命力が強く、人生をしっかりと歩む力を持っていると言われています。



実りある
1年に



午年

農業者

今年を駆ける



太陽に向かい、一段と伸びゆく年とするため、年男・年女の農業者の方に新年の抱負を語っていただきました。



新年のごあいさつ



香川県知事
浜田 恵造

新たな飛躍を

明けましておめでとうございます。
香川県農業共済組合におかれましては、昨年4月に、県単一組合として発足され、安定的な経営基盤の確保と農家サービスの維持向上に積極的に取り組まれておりますことに対し、深く敬意を表します。

農業をめぐる情勢が厳しさを増す中、農業共済組合には、農業者の保険需要に的確に対応し、農業経営の安定と生産力の向上に大きく寄与することが求められています。

香川県では、本県農政の基本指針である「香川県農業・農村基本計画」に沿って、農業者の経営安定と担い手の経営発展が図られるよう支援してまいりたいと考えていますので、皆様方には、今後とも、農業災害補償制度を通じて、本県の農業振興により一層のご支援、ご協力をいただきますようお願いいたします。

新しい年を迎え、香川県農業共済組合のますますの飛躍・発展と、組合員の皆様のご健勝、ご多幸をお祈りいたします。



香川県農業共済組合長
上砂 正義

「信頼のきずな」より強固に

明けましておめでとうございます。
日頃より皆様方には、農業共済事業に格段のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、記録的な高温、集中豪雨、台風、竜巻などの自然災害が頻発し、全国各地で大きな被害が発生いたしました。こうした自然災害に対するセーフティネットとしてのNOSA I制度の役割はますます重要となる中、組合員の皆様方が不慮の事故によって受けた損失の補てんを確実にを行う組織運営の充実強化を図るため、昨年4月1日、県内1組合となる合併をいたしました。

これからも組合員サービスの維持・向上、「信頼のきずな」をより強固にする外務活動に努めてまいりたいと考えておりますので、より一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

本年が穏やかな豊作の年でありますとともに、皆様方のますますのご健勝、ご多幸をご祈念申し上げます。

本年もよろしく願い申し上げます

代表
監事

中西 嘉弘
中山 敏夫
藤井 正和

代表
監事

合田 由行
合田 政光
松内 敏男
小野 正俊
横山 正太郎

代表
監事

山内 保弘
鉄川 武夫
谷口 義弘
杉尾 眞澄

代表
監事

大林 伸嘉
石井 保洋
川井 美文
熊本 義数

代表
監事

三好 正和
宮本 静夫
宮武 正明
香西 俊之

代表
監事

田中 健次郎
吉田 孝博
田中 孝博
宮崎 仁
上砂 正義



さぬき市大川町
なほき とちこ
渚 朋子さん

「獣医の先生にも
色々教えてもらっています」

大好きな動物のために

ステップアップを目指す



年女

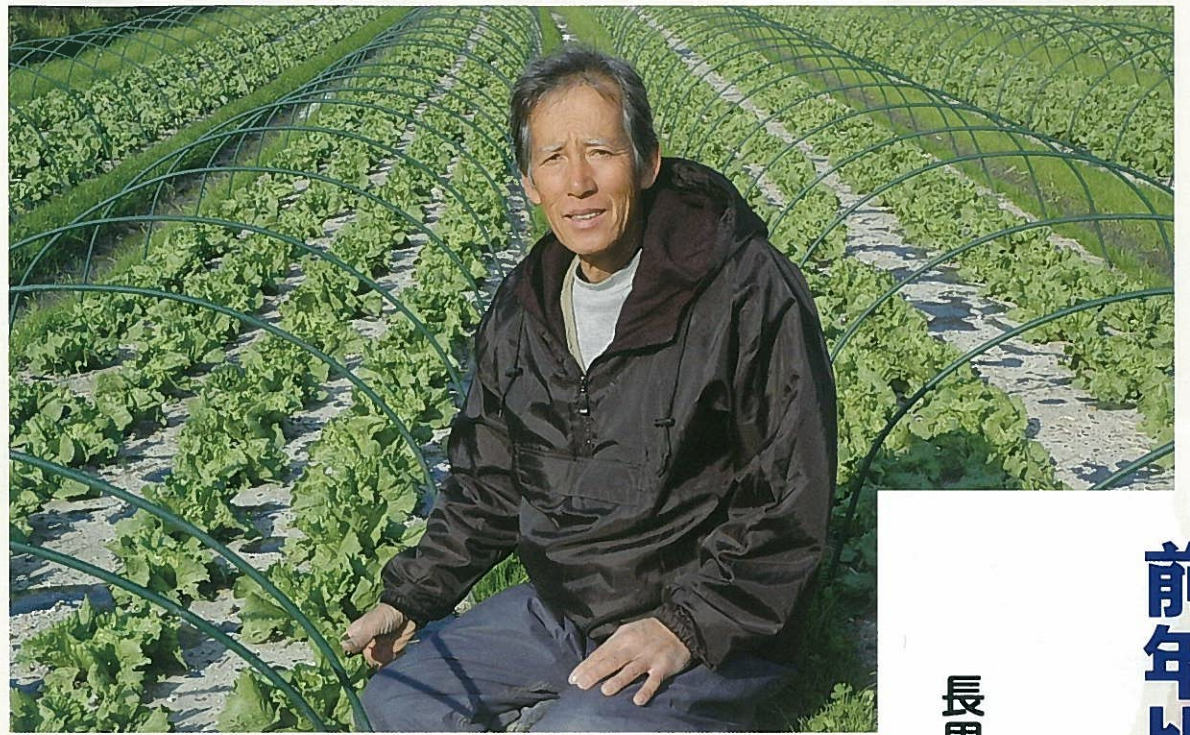
1978年生まれ



少しでも違和感があれば、熱を測る

「今は病気やけが見落とすこともあるので、今年は悪化する前に気付いてあげられるようになりたいです」と話す渚朋子さん（35）。動物たちと触れ合う仕事が好きで、という幼いころからの夢を捨てられず、7年前に肥育農家で働き始めた。主に子牛の健康管理を任せられ、毎日体調の変化を見極めながら、適切な処置を施している。

雇用主でF1、和牛、ホルスタインなど500頭余りを飼育する小倉望さん（さぬき市大川町、59歳）は「1日で辞める人がいる中、ハードな仕事もこなしてくれる。将来的には哺乳牛の体調管理全般を任せたい」と期待を寄せる。渚さんは、「作業中に近寄って来て、じゃれてくれる子たちもいるんです。嫌な事があっても、つい笑顔になっちゃいますね」と話してくれた。



善通寺市吉原町
くにしげ としお
国重 利雄さん

「雇用を増やして
規模拡大していきたい」

前年比130%に

面積拡大

長男と二人三脚でレタス栽培



年男

1954年生まれ



「まだまだ息子には負けられない」と利雄さん

「今年は野菜の作付面積を、3割ほど増やしたいと思っています」と話す国重利雄さん（59）。農業一筋40年余り。現在、レタス1500坪や青ネギ80坪、水稲100坪、ニンニク5坪を作付けしている。経営の中心はレタスと青ネギ。10月下旬から2月まで約10万本の苗を植え付ける。「大きすぎると機械での移植ができなくなるので、苗の大きさ

には特に注意を払っています」と国重さん。作業は、4年前にUターン就農した長男の雄介さん（28）と二人で携わり、繁忙期は雇用で対応する。青ネギ、レタス、ニンニクはJAの支援事業を利用し、出荷作業の労力を軽減している。国重さんは「あと10年、20年は頑張って規模を拡大し、安心して息子の代に渡したい」と意欲を見せる。



小豆島町池田
おかだ まさお
岡田 昌雄さん

「電照菊産地を守っていきたい」

仕事も趣味も

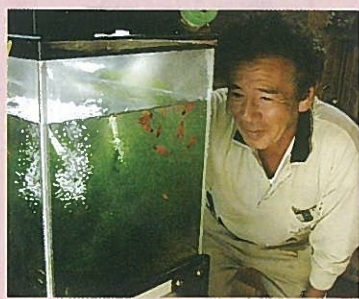
楽しみながら

菊栽培一筋40年



年男

1954年生まれ



観賞魚が疲れた心を癒してくれる

「これからも体力を維持しながら、無理をせず健康第一で仕事に興味に精進します」と話す岡田昌雄さん(59)。

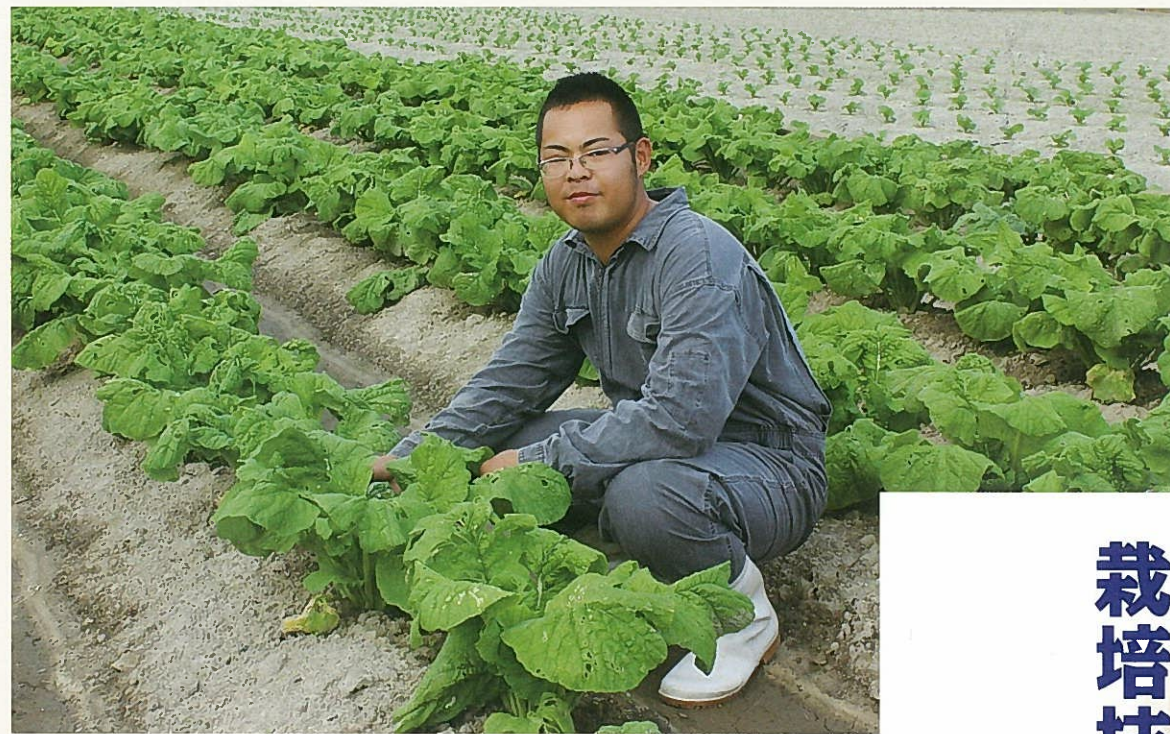
現在、約30㍗の電照菊を栽培する傍ら、共済部長としても活躍している。

菊栽培40年の岡田さんは、時代の需要や品種の特徴に合わせながら、今までに様々な品種を栽培してきた。「一度しか栽培しなかったり、病気にやられたりした品種もあり

「これからの体力を維持しながら、無理をせず健康第一で仕事に興味に精進します」と岡田さん。

菊の価格が低迷し、気持ちが落ちこんだ時は、趣味で飼っている熱帯魚や金魚が癒してくれるという。お気に入りにはランチュウで、現在30匹を飼育している。

「体を動かすことが好きで、毎週土曜日の夜には仲間たちとバレーボールも楽しんでいます」と、健康の秘訣を話します。



丸亀市飯山町
おおのやし まさとし
大林 将都士さん

「体力とやる気で頑張ります」

栽培技術を高めたい

夢は大規模経営



年男

1990年生まれ



「品目も面積も増やしていきたい」と大林さん

「昨年は農業の厳しさを感じた年でした。今年は着実に栽培技術を高めていきたいです」と話す大林将都士さん(23)。

農業大学校を卒業後、県内の農業生産法人で1年半、水稲や野菜の栽培技術を学んだ。2012年8月に独立就農し、ナバナ15㍗の栽培を始めた。

収穫時期が重ならないよう『春華』『花かんざし』『花かざり』の3品種を栽培したが、

収穫時に大変苦労したという。「収穫が予定通りにいかず、花が咲いてしまい出荷できないものが多く出ました。田んぼをもっとよく観察するよう心がけたいです」と話す。

今作は、面積を10㍗ほど増やし、4月上旬まで収穫可能な『花まつり』を追加した。「昨年よりも管理は難しくなりませんが、時期を工夫すれば栽培可能な面積だと思います」と意欲を見せる。



全体的に軽微な被害
麦共済金支払

平成25年産麦は、播種時期の降雨が影響し、発芽率の悪い耕地が見受けられました。また、5月の高温少雨によって、一部焼け熟れで粒張りは悪くなりましたが、収穫期の天候に恵まれたことから品質低下は少なく、全体的な被害は軽微でした。共済金は11月18日にお支払いしました。

平成25年産麦共済取りまとめ表(災害収入共済方式)

	引受			被害		
	実戸数(戸)	面積(a)	共済金額(千円)	実戸数(戸)	面積(a)	支払共済金(円)
東 部	43	24,032.3	77,639	2	165.9	71,046
高 松	210	71,308.2	258,324	12	1,781.5	1,107,512
小 豆	—	—	—	—	—	—
中 讃	90	52,062.6	207,328	17	2,654.9	2,779,420
仲多度	95	62,000.7	287,996	12	3,094.0	895,042
三 豊	187	23,998.4	95,739	18	1,306.5	763,227
合 計	625	233,402.2	927,026	61	9,002.8	5,616,247

極端な気象条件に被害を受ける
もも共済金支払

平成25年産ももは、4月後半から6月上旬にかけて干ばつ傾向に推移し、早生品種を中心に小玉果となりました。6月中旬

平成25年産もも共済取りまとめ表

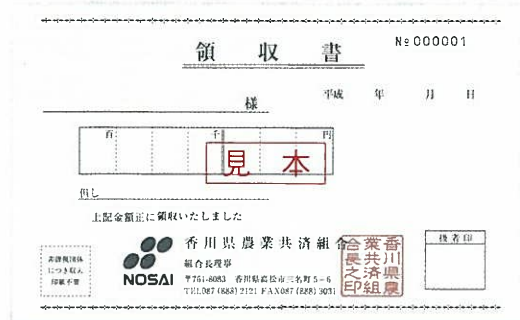
	引受			被害		
	実戸数(戸)	面積(a)	共済金額(千円)	実戸数(戸)	面積(a)	支払共済金(円)
東 部	11	222.0	3,475	2	27.5	62,820
高 松	7	281.4	4,286	1	16.4	7,530
小 豆	—	—	—	—	—	—
中 讃	75	3,233.9	40,163	29	667.6	942,560
仲多度	12	364.1	7,308	5	101.5	404,500
三 豊	114	3,651.4	62,411	40	1,091.4	2,671,360
合 計	219	7,752.8	117,643	77	1,904.4	4,088,770

から7月上旬の記録的な降雨により、中生・晩生品種では、裂果、腐敗果などが発生しました。病虫害の発生は少なかつたものの、せん孔細菌病も一部で見受けられ、また、山間部を中心に鳥獣害も発生しました。共済金は11月18日にお支払いしました。

共済掛金などの納入は
口座振替で

NOSAIでは、コンプライアンス(法令遵守等)対策の一環として、現金の取り扱いによる事故の未然防止のために、共済掛金等の納入は口座振替をお願いいたします。また、組合からお支払いする共済金等は口座振込とさせていただきます。

やむを得ず現金で納入された場合は、連番複写式領収書をお渡しいたします。また、現金納入についての確認を行うことがあります。ですので協力お願いします。



実を結んだ日ごろの鍛錬

第37回書写コンクール表彰式

10月26日、組合事務所にて特賞・金賞受賞者24人の表彰式を県農政水産部の川池秀文部長ら5人を来賓に迎えて行いました。

審査委員の小森秀雲先生から「選ばれた作品は、全国どこに出しても恥ずかしくありません。目を惹きつけてくれる非常に良い作品ばかりです」と講評をいただきました。



講評に耳を傾ける受賞者



表彰を受ける特賞受賞者

表彰式終了後には、揮毫会を実施しました。入賞者は、応募課題を半紙1枚だけで仕上げるという制約の中、手慣れた筆遣いで丁寧な筆運び、作品を仕上げました。

日本の農村写真を募集

全国農業共済協会では、第38回「新・日本の農村」写真コンテストを開催します。キャビネ判以上のプリント写真でご応募ください。

〈課題〉現代の農業・農村・農民をテーマに、その現実や明るく楽しい事象、災害などをとらえたもの。

〈締切り〉平成26年2月28日(金)、当日消印有効。

〈応募先〉全国農業共済協会「写真コンテスト」係(〒102-8411 東京都千代田区一番

組合の主な動き

- 10月1日 第2回コンプライアンス委員会
合祀祭
第5回理事会
監事会
- 3日 セキュリティ研修会
- 11日 損害評価会かき見回り調査
- 17日 大豆損害評価会委員打合せ
および現地研修
- 18日 中間監査
- ~24日
- 23日 家畜診療所意見交換会
- 26日 第37回書写コンクール表彰式
- 29日 損害評価会みかん見回り調査
- 11月5日 損害評価会麦共済部会
- 6日 損害評価会もも共済部会
- 13日 共済部長研修会



- 14日 第3回余剰金運用管理委員会
第6回理事会
役員研修会
- 12月6日 損害評価会水稲共済部会
- 9日 第7回理事会
- 20日 第3回コンプライアンス委員会

各支所の連絡先

- 東部支所**
さぬき市大川町田面王子1-2
TEL(0879)43-4121
- 高松支所**
高松市三名町東原5-6
TEL(087)888-1146
0120-58-1148
- 小豆支所**
土庄町大木戸沖甲5165-169
TEL(0879)62-0694
- 中讃支所**
坂出市川津町金山1825-4
TEL(0877)46-1211
- 仲多度支所**
善通寺市北町山下110
TEL(0877)62-5970
- 三豊支所**
観音寺市本大町1378-3
TEL(0875)25-2482
0120-031-304

町19番地) ※詳しくは農業共済新聞のホームページ (<http://nosai.or.jp/shinbun.php>)をご覧ください。

職員を募集します

採用予定人員 若干名
 採用予定日 平成26年4月1日
 職務内容 一般事務及び事業推進
 勤務地 県内事務所
 応募資格 ①昭和58年4月2日以降に生まれた方で、大学を卒業した方、または平成26年3月末までに卒業見込みの方
 ②パソコン操作(ワード、エクセル)ができる方
 ③自動車普通免許を有する方

応募方法 下記の書類を本組合総務課宛てに郵送してください(当日消印有効)。提出書類は、結果にかかわらず返却いたしません。

応募締切 平成26年1月31日
 選考方法 一次選考・・・書類審査
 二次選考・・・筆記試験・面接
 二次選考実施日時、場所は追って本人宛てに通知いたします。時期は2月中旬、場所は本組合会議室の予定です。

合否の通知 応募者全員に通知します。
 給与雇用条件 給与：職員給与規則による(大学卒業初任給 25年4月実績 178,800円)
 賞与：年2回
 手当：通勤手当、住居手当、扶養手当、超過勤務手当
 社会保険等：健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険
 就業時間：午前8時30分～午後5時(うち休憩1時間)
 休日：土、日、祝祭日、年末年始

応募・問合せ先 〒761-8083 香川県高松市三名町字東原5番地6
 香川県農業共済組合 総務部総務課
 電話 087-888-2121 FAX 087-888-3031

農家の声

♪温暖化に強い米の品種ができてくることはありがたいですね。(小豆島町 女性70歳)

♪トピックスでは、女性の皆さんが元気で生きがいを持って生きている、女性パワーに元氣付けられました。(東かがわ市小海 女性25歳)

♪うちのごはんのスタミナませがはんを母に作ってもらいました。ぼくはしょう油をたらして食べました。(高松市川部町 男性13歳)

♪孫が新米を食べて「じいじのお米おいしい」と言ってくれました。農家冥利につきます。(綾川町 女性48歳)

♪3号表紙のお二人の素敵な笑顔!おもしろさが伝わってきます。(まんのう町 女性67歳)



《当選者》

高橋洋子さん(さぬき市造田)
 中井愛子さん(高松市西植田町)
 河内 進さん(丸亀市飯山町)
 塚本 想さん(丸亀市金倉町)
 岡田修二さん(観音寺市豊浜町)

高松市亀水町産キウイフルーツ「さぬきエンジェルスイート」をお送りしました。

3号 当選者発表

答え さぬきふじ



三木町 江見 馨さん

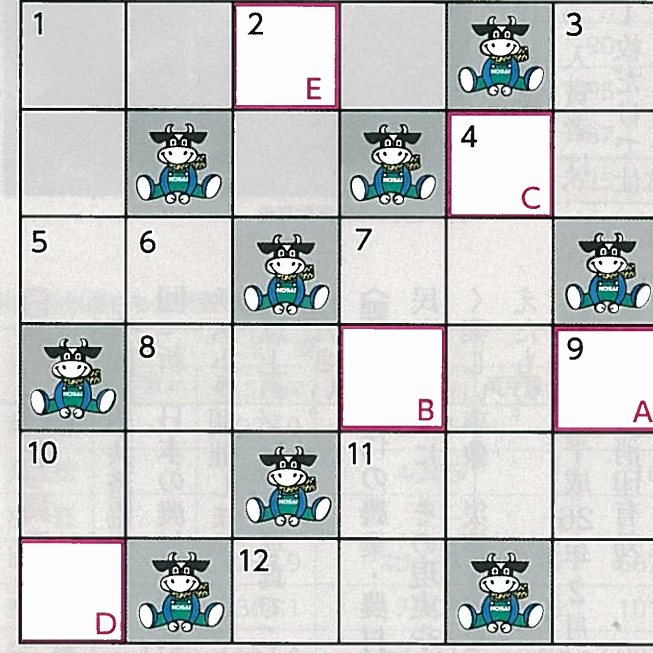
さぬきひめ 女子部

★出合いを大切に

「いろんな世代のお客さまと話ができる今の仕事大好きです。人との出合いを大切にしたいです」と話す、生命保険会社に勤める江見馨さん(29)。営業チームのリーダーとして日々、県内を飛び回っている。

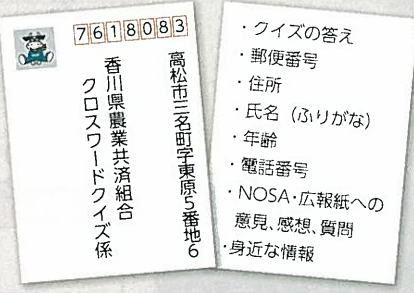
休日には友人と買い物に出かけるのが楽しみで、ドライブを兼ねて県外のアウトレットまで出かけることもある。「ご当地グルメを見つけると、つい寄り道してしまいます。いっぱい食べて料理も上手になりたいです」と微笑む。

クロスワードクイズ



正解者の中から抽選で10名さまにトロピカルフルーツのジャム、ゼリーセット(三豊市・株式会社アンファーム製)をプレゼントします。たくさんのご応募お待ちしております。

はがきに、①A~Eを順に並べたクイズの答え②郵便番号③住所④氏名(ふりがな)⑤年齢⑥電話番号⑦NOSA | ⑧広報紙への意見、感想、質問⑨身近な情報などをご記入のうえ、ご応募ください。



○応募の宛先 / 〒761-8083 高松市三名町字東原5番地6
 香川県農業共済組合クロスワードクイズ係

○応募締め切り / 平成26年2月21日(金) 消印有効

○当選者発表 / 平成26年5月発行予定の7号で発表いたします。

応募によって得られた個人情報は、賞品の発送と今後の広報紙作成の参考意見とする以外の目的に利用しません。

たてのカギ

1. 価格・等級などの差。○○○社会
2. そら○○。しょうゆ○○。エンドウ○○
3. 精米すると出ます。○○漬け
4. 夜明け前に茜色に染まる空
5. 全身がゾクゾクとする寒気
6. 電宮城のお姫さま
7. なべ料理のシメ。ご飯を入れて……
8. 草木の茎や幹から分かれた部分

よこのカギ

1. お正月に、家の門前に飾ります
2. 奈良公園にたくさんいる動物
3. 釣りの道具
4. 木こりが木を切るのに使います
5. 勝って○○○○○を締めよ
6. めぐり合わせ。つながり。えにし
7. 別名白鷲城と呼ばれる兵庫県の○○○城
8. ○○の甲より、年の功

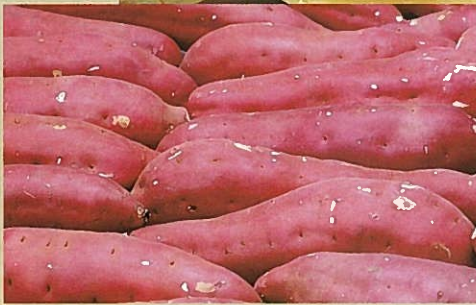
つくってんまい!
たべてんまい!

うちのごはん

vol.
05

風味豊かな

ほくほくサツマイモパン



《サツマイモ》

食物繊維やビタミンB群を多く含むことから便秘を改善する作用があり、ダイエットにも活用できる食材です。

材料(6人分)

A	●強力粉	200g
	●塩	3g
	●砂糖	10g
	●スキムミルク	10g
	●ドライイースト	4g
	●ぬるま湯(30~35℃)	140g
	●無塩バター(室温)	10g
	●打ち粉用の強力粉	少々
	●サツマイモの甘露煮	1cm輪切り6枚
	●黒ごま	小さじ6

※下準備「生地作り」

- ①Aとぬるま湯をボウルで混ぜ、まとまってきたら手で5分ほどこねる。
- ②無塩バターを加え滑らかになるまで20分ほどこね、バターをぬったボウルに入れる。
- ③大きなボウルに約40℃の湯をはり、②のボウルを入れてラップをする。生地が2倍になるまで約40分、発酵させる。

作り方



生地を6等分し、丸めたものをパンマットで20分休ませる。



生地を伸ばし、サツマイモの甘露煮を載せて巻く。上部に霧を吹き、黒ごまをまぶす。



天板に50℃の湯を入れた湯のみを置き、ビニールで覆い1時間ほど発酵させる。



生地の上部に切り目を入れ、200℃に温めたオーブンで12分焼く。

できたてパンは
格別ですよ!



料理紹介 小豆島町
おかだ みちよ
岡田 美智世さん

「あとがき」
あけましておめでと
うございます。本年が皆
まにとつて、良い年にな
ることを祈っております。
雪が積もった田畑の中
で、雪合戦やたこ揚げを
した思い出を、後世に伝
えていきたいです。親か
ら私に、私から子に。



「表紙のつづき」
「当たり前のことを手抜
きななく、確実にこなすこと
が大切ですね」と話す、有
限会社石川農園(観音寺
市大野原町)代表取締役
の石川敬諭さん(64)、専務
の幾子さん(64)夫妻。
従業員15人と、レタス
(23粒)を中心に青ネギ、
水稲などを栽培する。
2003年に法人設立
後、規模拡大をすすめてき
た。「法人では、今の規
模が精一杯。熱心な若者を
育て、農地を余さず活用し
てほしい」と後継者育成に
意気込む。